

上浦中1年 浦幌再発見の学習

浦幌新聞



2021年（令和3年）
1月25日（月曜日）
発行元
特定非営利活動法人
うらほろスタイルサポート



上浦幌中学校1年生は知愛の時間で、浦幌町の魅力を再発見し、働くとはどういうことを学ぶため地域の大人にインタビューをしました。北村林業の北村昌俊さん、株式会社KIZUKI（キズキ）の三村直輝さん、株式会社oikay（オカイ）の森健太さん、地域おこし協力隊の三宅草一朗さんと私、見山夕莉、上浦幌で農業を営む松田泰一さんに話を聞きました。

また、漁業について七協水産の齋藤卓也さんにインタビューをし、その様子は先月号の浦幌新聞でご紹介しています。ぜひそちらもご覧ください。

北村昌俊さんへのインタビューは11月17日（火）にZoom（ズー



北村さんとの集合写真

ム）を使って行われました。北村さんは子どもたちの質問に対し「浦幌町の嫌いなところははない。全部素晴らしい」「森林を通して人々に幸せを届けたいと思って仕事をしている」など、熱い想いを話してくれました。

11月20日（金）は、TOKOMUROR Lab（トコムロラボ）の見学と4名の浦幌町



三村さんへのインタビュー

で働いている町外出身の大人へのインタビューが行われました。どうして町外から来たのかという質問に、「浦幌町には多くの資源や自然がある。お世話になった人たちに恩返しするためにも、豊かな資源を活用したい」「浦幌には未来があると思う。ここでたくさん経験がしたい」などこれまでの経験談を交えながら浦幌町で働く理由を話してくれました。

松田泰一さんへのインタビューは、11月30日（月）に行われました。上浦幌の土の

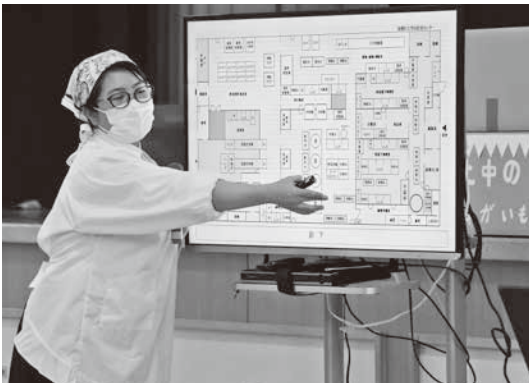


特徴や農業についてのほか、松田さんの経験についても話してくれました。「農業は家族ではないかもしれないけど、家族とずっと一緒にいられる」など、松田さんが思う仕事の魅力を話してくれました。

浦幌町の魅力を再発見する中で子どもたちの目が輝く瞬間を数多く見ることができました。この学びを今後の学習に生かしてほしいと思います。

（地域おこし協力隊 見山夕莉）

じゃがいもが給食に！ じゃがいも贈呈セレモニー



【上浦中】11月6日（金）に、上浦幌中学校でじゃがいも贈呈セレモニーが行われました。

上浦幌中学校では、毎年多くのじゃがいもを栽培し、収穫しています。今年はその一部が学校給食で使われることになり、水野教育長と栄養教諭の松井先生へじゃがいもが贈呈されました。

贈呈の前には松井先生から給食ができるまでどんな工程があるかなどの、給食にまつわる講話がありました。給食センターの構造や、働いている人の数、給食のカレーの作り方など、子どもたちはあまり聞くことのできない話と聞きおどろいた表情を見せていました。

贈呈されたじゃがいもは、11月10日（火）の「ポテトのチーズ煮」、11月18日（水）の「子キンカレー」に使われました。（地域おこし協力隊 見山夕莉）

太陽への手紙発表会

ふるさと学習の学びと成果



画用紙を使って発表

【上浦中央小】11月11日（水）に上浦幌中央小5・6年生による太陽への手紙発表会が行われました。太陽への手紙は小学校でのふるさと学習の学びを振り返り、まちをより良くするための要望を提案するものです。子どもたちは町長、副町長、教育長の前で発表しました。

子どもたちは暮らしている上浦幌地区の課題や、農業を家業にしている中で見える課題を明示し、これを解決するための案を考えていました。あるグループの発表の中には、「今はトラクターで除草剤をまいているけど、将来的にドローンでまけるようになったら便利だと思う。さらにドローンの免許が取れる講習を上浦幌公民館でやれば、上浦幌の農家さんたちの助けになる。」といった内容がありました。



たくさん質問しました



た。すべてのグループの発表が終わったあと、子どもたちの進行でパネルディスカッションが行われました。質問を合うことで、お互いの発表への理解を深めていきました。当てきれないほどたくさん手が挙がり、活発な意見交換が行われていました。子どもたちは緊張していたかもしれませんが、とても堂々と発表していました。小学校での学習に一生懸命に取り組んできたことが伝わる発表会でした。（地域おこし協力隊 見山夕莉）

浦幌町PR活動



浦幌の魅力でPR



PR活動実地調査

実地調査をもとに大学生に魅力をPR！

【浦幌小】11月6日（金）に浦幌小6年生がまちのPR活動に向けた実地調査を行いました。地域の方へのインタビューや、森林公園などの見学をしました。「おいしいものグループ」「第一次産業グループ」「人のあたたかさグループ」など全部で7つのグループに分かれ、ふるさとの魅力に迫る取材を進めました。

11月20日（金）にPR活動は本番を迎えました。例年は修学旅行先の札幌での取組でしたが、今年度はオンラインを活用し小学校から発信されました。Zoom（ズーム）を使って北海道教育大学釧路校の大学生とリモートでつながり、浦幌町の魅力をPRしました。

子どもたちが感じた驚きや感動が伝わってくる、素晴らしい発表でした。この学習の思い出を大切にしてほしいです。

（地域おこし協力隊 見山夕莉

阿寒のブランド力探究

鶴雅ホールディングス 大西社長から学ぶ



高田さんからの講話

【上浦中】11月27日（金）に、上浦幌中学校2年生の知愛の時間の学習で、阿寒のブランド力探究を行いました。

上浦幌中学校2年生は第6次産業、ブランドディングをテーマに学習をしています。今回の学習では浦幌町のブランド力を見つめるヒントを得るため、阿寒湖温泉街に行き、そこで働く人から講話を聞き、インタビューをしました。はじめに阿寒観光協会まち

づくり推進機構の高田さんから阿寒湖温泉の歴史やアイヌ文化との交流についての講話がありました。子どもたちは「このまちにも必ず魅力がある。磨き上げれば魅力になるはず」というメッセージが印象に残っているようでした。

次に阿寒湖周辺の自然を体験的に学ぶため阿寒湖畔エコミュージアムセンターにてガイドウォークをしました。ア



大西社長へのインタビュー

イヌ文化の体験や逸話を聞き、観光客に評価されるわけを体感していました。

最後に、鶴雅ホールディングスの大西社長からの講話を聞き、インタビューをしました。大西社長は「郷土力を磨いて地域とともに成長する」「周りの会社とつぎ合っただけではなく、協力し合う」など阿寒のブランド力の秘密に迫るような話をしてくれました。

今回の学習での学びを生かして、子どもたちなりの浦幌町のブランド力を見つけてほしいと思います。

（地域おこし協力隊 見山夕莉）※写真は撮影のため一時的にマスクを外しています。